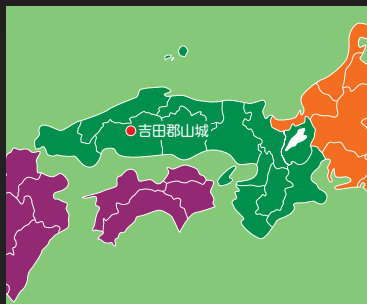


もくじ

三重県	きたばたけとも のり 北畠具教	8
滋賀県	ろっかくよしかた 六角義賢	10
滋賀県	あざ い ながまさ 浅井長政	12
奈良県	まつながひさひで 松永久秀	14
	てん か びと 「天下人」になるということ	16
奈良県	つつ い じゅんけい 筒井順慶	18
和歌山県	さい か まごいち 雑賀孫市	20
京都府	いっしきよしきよ 一色義清	22

大阪府	けん 顕	によ 如	24
兵庫県	くろ だ かん べ え 黒田官兵衛		26
岡山県	う き た なおいえ 宇喜多直家		28
広島県	もう り もとなり 毛利元就		30
	もう り し てん か びと なぜ毛利氏は天下人にならなかったのか		32
鳥取県	やま な とよくに 山名豊国		34
島根県	あま ご つね ひさ 尼子経久		36
山口県	おおうちよし たか 大内義隆		38



もうりもとなり 毛利元就

広島県



よしだ こおりやまじょう
吉田郡山城

もうりりょうせん きっかわ こばやかわ たいせい きず 毛利両川(吉川・小早川)体制を築く

27歳で吉田郡山城(安芸高田市)主になったとき、「国人衆」と呼ばれる豪族にすぎなかった毛利元就はまた戦国大名の大内氏にしたがう立場で、おもに敵対していたのは山陰地方から南に攻めこんでくる尼子氏で、尼子晴久軍に吉田郡山城を囲まれたこともありました。

同じ大内氏家臣の陶晴賢が反乱を起こして大内義隆を滅ぼすと、その晴賢を厳島(廿日市)に誘いこんで仇を討ち、さらに月山富田城(島根県安来市)を攻めて尼子氏をも滅ぼしました。その結果、現在の山口県・広島県・島根県・鳥取県だけでなく、岡山県の半分くらいまでふくむ広大な領地をその手にしたのです。

中国地方の大半を領地にしてしまったため、元就はおさめることに苦労しました。

ほかの武将もやったように、検地をし、優秀な人材を登用し、吉田郡山城(中央)から地方へ命令が行きわたるようにしました。

でも、なにより元就がすぐれていたのは、有力家臣との縁組です。

もちろん長男の隆元には毛利家を継がせ、次男の元春は吉川家に養子に出し、3男の隆景は小早川家に養子に出すことで、両家に毛利本家をささえさせたのです。吉川家・小早川家に「川」の字が入っていることから「毛利両川」と呼ばれました。

三本の矢

毛利元就は、かなり慎重で、なおかつ細かい性格だったようです。

お父さんとお兄さんが酒のために早く死んだことから自分は生涯酒を飲まず、孫の輝元になで「酒を飲みすぎるな」と手紙に書くほどでした。また、次男の元春と3男の隆景に「毛利家を大事にしなければならぬ」とさす手紙のなかで書かれているのが、有名な「三本の矢」の話です。1本(毛利)の矢は簡単に折れるが、3本(毛利・吉川・小早川)束ねれば折れにくいことを示して、三兄弟の結束を説きました。死ぬまぎわに子どもたちの数だけの矢を持ってこさせ、三本まとめてだと折れないところから説教に入る話は、手紙に書かれていたことをもとにつくり上げられたものです。

ちなみに地元広島のサッカーチーム「サンフレッチェ広島」の名前は、日本語の「三」とイタリア語の「フレッチェ(矢)」をあわせてつくられたものです。



なぜ毛利氏は天下人にならなかったのか

地方の有名武将

「天下人」になった織田信長、豊臣秀吉、徳川家康については、すでに触れました。
今川義元、武田信玄が「天下人」になるために上洛しようとして果たせなかったことも触れました。

では、ほかの地方の武将たちはどうだったのでしょうか。

たとえば、中国地方の毛利氏はどうだったのでしょうか。

いつでも「天下人」に挑戦できた

毛利元就の時代は、周辺の武将との戦に明け暮れていたもので、まだ「天下人」へ意識が向いていなかったようです。

息子の毛利隆元、吉川元春、小早川隆景の時代も領国をたもつことでせいっぱいだったようですが、元就の孫、つまり隆元の子の輝元の時代になると様子が変わってきていました。

すでに信長が「天下布武」をとнаえていて、將軍の足利義昭は「だれでもいいから信長を倒してくれ」とあちこちの武将らに助けをもとめていました。信玄も、それで上洛しようとしていました。

義昭のもとにに応じた輝元が水軍を利用して、信長に抵抗して立てこもる願如がいる石山本願寺(大阪市)に食糧を運び入れたことは有名な話です。

また、関ヶ原の戦いでは、石田三成のもとに依じて、西軍の大將(豊臣秀頼の代理)にもなっています。

いつでも「天下人」に挑戦できそうな場所にいたのです。

領地を大事にすること

でも輝元が「天下人」をめざすことはありませんでした。

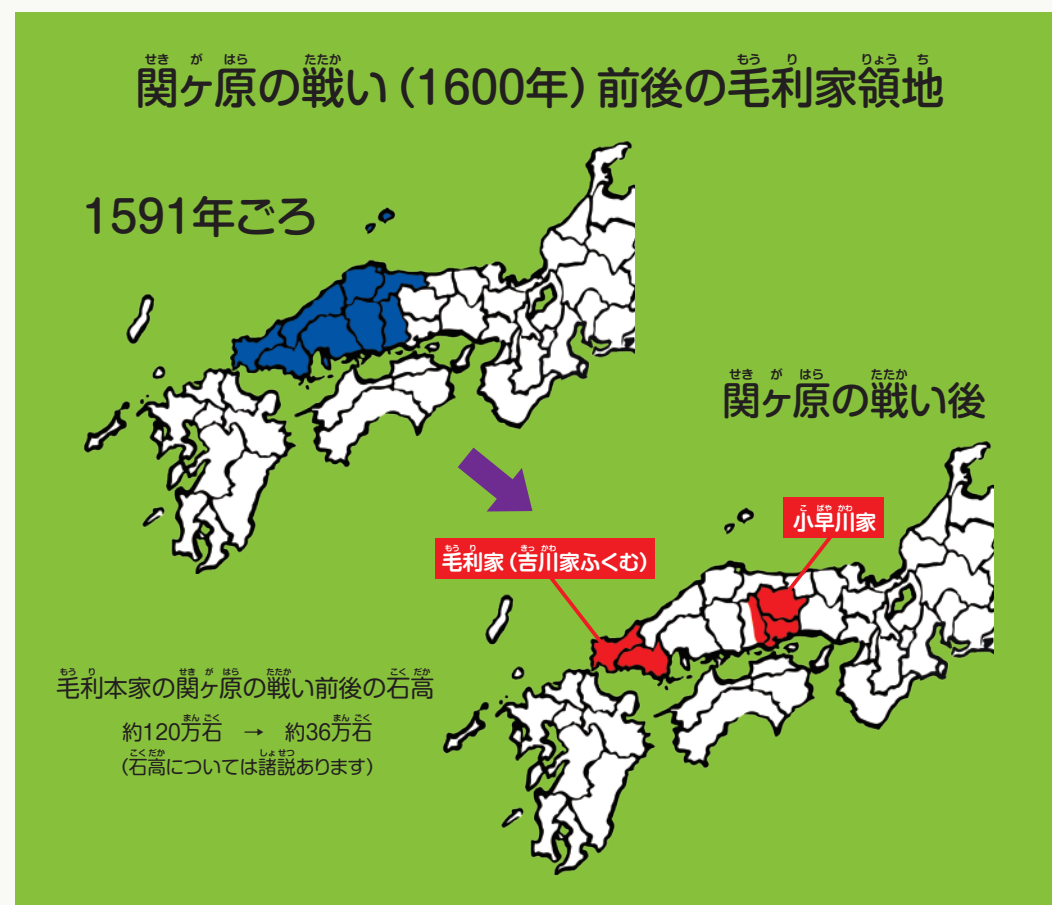
輝元本人は上洛するつもりがあったのに、おじさんにあたる吉川元春、小早川隆景に反対されていたという話もあります。

元春と隆景は、父親の元就の遺言「三矢の教え」をしっかりと守り、毛利氏の領地をしっかりおさめることを最優先するべきだと主張していたのでしょうか。

最後は天下をとった？

「天下人」とは縁がなかったような輝元。

三成のもとに依じて西軍の大將になったのはいいものの、その関ヶ原の戦いで敗れてしまったため、中国地方の多くをおさめていたのに、領地のほとんどを没収され山口県だけしかおさめることができなくなってしまいます。



しかし関ヶ原の戦いから250年あまり後。

山口県に住む思想家の吉田松陰の松下村塾に集まった久坂玄瑞、高杉晋作ら青年たちの熱い思いが、尊王攘夷運動を激しくさせていき、同じ山口県出身の桂小五郎(木戸孝允)、高知県出身の坂本龍馬、鹿児島県出身の西郷隆盛、大久保利通といった青年たちが江戸幕府を倒すことになるのです。

まさに「天下人」になったといえるのではないのでしょうか。